



TITLE:

<大會抄録>魏晉代の潁川庾氏について

AUTHOR(S):

多田, 狷介

---

CITATION:

多田, 狷介. <大會抄録>魏晉代の潁川庾氏について. 東洋史研究 1974, 33(3): 523-523

ISSUE DATE:

1974-12-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/153548>

RIGHT:

との論證を中心に、カイムトゥなる人物像のアウトラインをえがいたにとどまった。

今回は、この十六通——土地貸借六、農産物貸借七、棉布貸借二、土地譲渡一——の證文内容についてその後さらに考察を加えたところを報告し、中世トゥルファン地方の一地主としてのカイムトゥ像を、より具體的に把握する補いしたい。關連してウイグル文書にあらわれる土地問題について若干の問題を指摘したい。

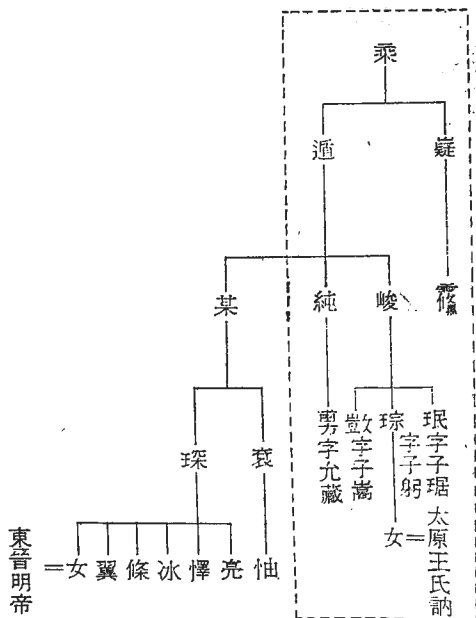
### 魏晉代の潁川庾氏について

多田 狷介

東晉代明帝の庾皇后の兄亮は、王導・王敦らに對抗する政界の重鎮であり、西府軍團の領袖としてのその地位は弟冰・翼へと繼承された。潁川鄆陵の庾氏が、いつごろに起源し、いかなる人々のどのような歩みによって一個の門閥貴族へと成長したのかをあとづけることが本報告の主題である。但し、今回は庾氏全盛の庾亮らの一つ前の、西晉末年の世代迄を一應の範圍とした。潁川庾氏という一個の事例からひき出される知見が、一般に門閥貴族制の形成期とされているこの時期の全體的認識とどの程度相互に流通してゐるかが確かめたいところである。さらに、門閥への形成過程における學問教養——儒學や老莊——の機能と意味、「八王之亂」以降の混亂期における同族内個々人の處生と命運といった點にも觸れられたらと思つてゐる。

〔潁川鄆陵庾氏略系圖〕

點線内がほぼ、今回の報告範圍



### 清代臺灣の水利組織について

森田 明

清朝は三藩の亂に次いで康熙二十二年（一六八三）、鄭氏の抗清運動を抑え臺灣を領有下におき、中國支配を確立した。臺灣領有はその後雍正・乾隆へと展開される清朝支配の Extension の一環であった。時あたかも清朝は封建支配體制の相對的安定期を迎え、人